



令和6年12月13日

各 位

上場会社名 ファースト住建株式会社
代表者 代表取締役社長 中島 雄司
(コード：8917、東証スタンダード市場)
問合せ先責任者 取締役管理部長 東 秀彦
(TEL. 06-4868-5388)

特別利益（負ののれん発生益）の計上及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、令和6年10月期において、特別利益（負ののれん発生益）を計上することとなりましたのでお知らせいたします。また、令和6年5月31日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別利益（負ののれん発生益）の計上について

当社は、令和6年10月17日付で株式会社KHCの株式を取得し、同社及び同社の完全子会社6社が新たに連結子会社となりました。これに伴い、令和6年10月期において、負ののれん発生益1,477百万円を特別利益として計上する見込みです。なお、当該金額は令和6年10月期においては取得原価の配分が完了していないことから、入手可能な合理的な情報に基づき、暫定的に算定された金額であります。

2. 業績予想の修正について

(1) 令和6年10月期通期連結業績予想（令和5年11月1日～令和6年10月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	36,900	2,210	2,180	1,320	94.98
今回修正予想（B）	35,985	1,828	1,799	2,496	179.60
増減額（B-A）	△915	△382	△381	+1,176	
増減率（%）	△2.5	△17.3	△17.5	+89.1	
（ご参考）前期実績 （令和5年10月期）	43,373	2,723	2,661	1,751	126.05

(2) 修正の理由

当連結会計年度におきまして、住宅需要が冷え込む状況が続いており、主力である戸建分譲の販売棟数が予想を下回り、また営業利益及び経常利益では収益性の改善が進まなかったことや株式会社KHC株式に対するTOBに関連する費用が発生したことなどにより、予想を下回る見込みとなりました。一方、親会社株主に帰属する当期純利益におきましては、特別利益として負ののれん発生益を計上することにより、予想を上回る見込みとなりました。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上